

竹田市経済活性化促進協議会

人材育成メニュー

第1回 森林バイオマス活用人材育成セミナー 報告書

日 時：平成23年11月24日（木）14：00～16：30

場 所：こしきの杜

人材育成メニュー 第1回 森林バイオマス活用人材育成セミナー風景



質疑・意見・応答内容 (●質疑 ○意見 ⇒応答)

- 薪は集められると思いますが、消費の方が心配。
⇒パルプ・チップ業者がいて引き取ってくれれば、取りあえずはそこから出口を何も考えずに始められます。
- A材・B材・C材とはどのような違いがありますか。
⇒A材は、無垢で使用できる建築材、B材は合板等に使用し、C材はそれ以外となります。3つのランクに分かれます。Dまでであるという方もいますが。
- モリ券について、行政はどのくらいの予算を付け、どのような関わりを持ち、期間等はどのようになっていますか。
⇒仁淀川町は年間400万円です。環境支払として出していますが、これだけに頼ると、いつ終わるかかわからないので自分で仕組みを作っていくといけません。九州では「木になる紙」という事例がありますが、本来環境支払として出すべきです。紙に付加価値を付けて売り、付加の部分は山に還す。他にはダムの浄化もやっています。ダムを守るには森を守らないとだめです。土石がたまって水が溜らなくなったら終わりです。山を管理する為に、ダムが必要な下流から財源を貰う。地域行政も財源を出してシステムを作る。ヨーロッパでは、国・州などによって税金でやっています。知恵を出し合い、地域に合ったシステムを作ることが大事。その間は行政に負担してもらいやり方でいけばいいでしょう。仁淀川町では、年間400万円です。4,000トンの林地残材を収集し、その中の12,000トンは素材生産です。すごいでしょ。
⇒(中坊)「木になる紙」の補足です。普通のコピー用紙は安いもので1ケース1,400~1,700円位ですが、「木になる紙」は2,200~2,300円位と高いです。1箱あたり50円が事務局に入り、事務局から素材生産業者(間伐材を出す業者)にお金が入る仕組みとなっています。使われている税金は0円で、九州森林管理局が全面的にPRに協力しています。主だった官公庁(県や霞が関の農水省も)は「木になる紙」をコピー用紙として使用しています。このように、行政はお金を出さずにPRに協力する形となっています。今日の資料も全部ではありませんが、少し茶色い紙は「木になる紙」です。
- タンコロはあっても現金にならないので山に入らなくなりました。1台10万円はしないと生活できません。今はほとんど農業をやっています。25haの山がありますが、本当は山(林業)だけでやっていきたいと思っています。
⇒知り合いの方は平成12年に定年後62歳で始めました。10haから30haに増やし(今は200haを目指しています)、時々手伝っていた息子が戻ってきて二人で林業を始めました。1人で1日2.5m³、3トンダンプで5m³(ちょっと載せすぎですね)出しています。これは大した量ではありません。高知では檜4:杉6ですが、1m³の平均単価が13,000~14,000円です。7万円を超えます。あと林地残材を3トン出していますので、15,000円位になりま

す。併せて二人で9万円位になります。燃料代等の経費を引いても、1人日当3~4万円です。サラリーマンをしていた息子は、収入が2倍になったと言っていました。今も山を増やしていますので、山奥の1haを100万円と高めに購入しています。そうすると、彼らをモデルとしてどんどん真似し始めます。先程紹介した橋本さん位になると、75~90年の木ですので1本4万くらいします。それを年間200本出したとしても、800万円位にはなりません。親子で暮らせますね。いい木を作ると、1日1㎡で良くなるので午前中で終わっちゃうことにもなります。ですので、2日に1日は休んでいますよ。

- 副業で、父が元気な5年前まで一緒にやっていました。最近はだんだん元気がなくなってきたので一緒にできなくなりました。山の手入れはしないといけないので、森林組合等の業者に頼んでいます。

⇒林研の中で近い人と一緒にはできないのですか？難しいのであれば、ひとりで山に入るのは怖い(危ない)ので、2人か3人でやった方がいいですね。

- 家が林業をやっている親父が自分で山から切り出していました。その親父から「お客さんから伐採を頼まれても、自分の山と行って行け」と言われてきて、そうやっております。

⇒土佐町森林組合では、森林組合が中心になって自伐林業方式を展開しようとしています。森林組合が「業者のように委託を受けて、やって終わったら返す」というのをやっていたら、本来の森林組合ではないと思います。山主と一緒に山主の為になる事をし、雇用を生みながら永続的にやっていけるようにしていかないといけないと思います。これはどこの森林組合もしていないので、これを広げることが自分の役目ではないかと思っています。まずは土佐町の森林組合からやります。

- まだ林業関係の仕事について1週間くらいなので難しかったのですが、今回の話を聞いて、林業は地域の為、山の為になる事だとわかりましたので、これからも勉強していきたいと思いました。

- 高知県には仁淀川などありますが、大規模集約林業を行っている地域等がありますか？

⇒大規模集約林業は山を痛めます。梶原町(ゆすはらちょう)の川はいつも濁っています。梶原町森林組合は林道が4トントラックと高性能機械の通る4m以上ないと林業は出来ないと言っています。四万十川の上流(源流)に梶原町があるので、作業道から土砂が入り込んで濁っているのです。負荷が大きすぎるとだめなんです。梶原町は林業で有名ですが、これ以上は進みません。林業雇用も増えていません。作業員を班体制で配置していますが、これではいつまでたっても作業員(オペレーター)なので駄目なのです。自伐林家は、「森を作り守る」「材を出す」「山を生態系まで管理する」のでforesterです。森づくりの技術と、山を管理するフォレストィングを1人の人が持てる状況を作ってあげるのは自伐林業方式しかありません。今の請負型の業だけしても、どこまでいってもオペレーションでしかありません。(特に高性能機械でやると)きついし大変。職員がどんどん変わります。この作業をインドネシア人が行っています。日本製紙の工場がインドネシアにあり、教え

てもらっているのです、TPP で日本の林業に参入しようと狙っています。

橋本さんが原型を作ってくれたので、これを基にしてアレンジすればいいだけです。自伐林業方式でやるべきです。一度橋本さんの林業を見に行ってください。楽しそうにやっていますよ。

⇒(中坊)中嶋さんは一刀両断されますが、根底にあるのはいい山を作りたいことです。これは林野庁もわかっているでしょう。中嶋さんは、林野庁がこれまで進めてきた、「高性能林業」「大規模集約」一辺倒の政策に対して問題定義しています。中嶋さんのやり方で成果も出てきているので、最近色々取り上げられてきていると思います。今回の竹田市の事業の目的が「雇用を生み出す」ということなので、この竹田市の森林でいかに雇用を生み出すか、「土佐の森方式」をそのまま取り入れるのか、「竹田市方式」を作り上げるのかなど考えていく必要があるでしょう。

●「土佐の森方式」を自治体等で計画に盛り込んだ事例はあるのでしょうか。

⇒計画したところは、鳥取智頭町、島根津和野、島根雲南市、千葉県山武市、山梨道志村、長野阿智村、岡山美作市、丹波篠山、丹波市、豊岡田島・丹波、高知嶺北、福島鮫川村、和歌山山北村、埼玉秩父、兵庫葛西などです。ほとんどがこの2~3年で作っています。「エネルギービジョン」「バイオマスタウン」「みどりの分権」この3つです。「みどりの分権」は、「土佐の森方式」をモデル化しています。

⇒(中坊)どこを「土佐の森方式」というのでしょうか？自分の理解としては、原木を3円/kgを現金、3円/kgを地域通貨(合計6円/kg)を月末集計で支払って購入。他のところはカンカンを使っていますが、これには400~600万円の初期投資が必要です。あとは原木の長さを決めてm³換算するところもあります。

⇒基本的には地域住民全員を対象にし、誰も排除しない仕組みを作っていくことが林業を推進していくことに繋がる。それからみんなが集まり、実行委員会等を立ち上げ、そこに地域事業というもの生まれるということが「土佐の森方式」です。

⇒(中坊)そこで心配になるのが出口の部分だと思います。智頭町では材として出せるものは用材として出し、あとはパルプ業者がまとめて買ってくれるので出口の心配はないです。ただ、一部薪用であればパルプよりもいい値段になるので薪として売っているようです。

⇒「エネルギービジョン」や「みどりの分権」をやっているところは、稼働するしないは別として、全部エネルギー利用(薪・チップ・一部ペレット)を計画に入れています。

●竹田市もペレット製造を計画に盛り込んでいます。

⇒原木からペレットはやめた方がいいです。エネルギーの無駄です。「銘建工業」みたいな大きな業者では原価10円しか、かかりません。小さい製材所でもプレナー屑が出るところは15円くらいでしょう。原木から作ったら、どんなに努力しても35円以下にはなりません。栲原(ゆすはら)でも40円越えています。仁淀川も45~50円です。ペレットは、製材所のおが屑やプレナー屑で作るのが基本。ヨーロッパは原木で作っていないので、ペレット3割・チップ3割・薪3割なんです。日本はペレット100で行こうとして、製材した製品をヨーロッパから買っています。ペレットを1~2割にし、残りをチップと薪にすべ

きです。今原木からペレットを作っているのは全部公共事業です。ずっと公共が負担しないといけません。樺原もそうです。ただ、北海道では価格調整を行い、45円以下で売っては駄目となっていますが、これは独禁法に違反していると思います。こうしないと、原木からペレットを作っている業者が成り立たないからなんです。カナダ産やベトナム産はとも安いです。どんどんグローバル商品になり、TPPでどんどん安い商品が入ってきます。原木からペレットは絶対にやめましょう。

●昔高い苗を植えたましたが、(しぼり丸太) 今売れない。

⇒徳島にも、それをやって大変だという方がいました。結構苦労して植えたのに全然売れなくなっただけですね。無垢のいい木は、杉でも4万円/m³くらいになり、関西系の業者が買うとこれが「吉野杉」になり、新潟県の業者が買うと「秋田杉」になります。昔に比べたら今は値段が下がりましたが、そこまでは行かなくてもいい木を作ればそれなりの値段になるので、いい木を作ることが大事です。

中坊：今後の予定としまして、次回は又土佐の森の中嶋さんをお呼びして、「自伐林家養成塾」の内容を12月23～24日に第1回目、1月20～21日に第2回目として、1泊2日で実地研修を予定しています。初心者講習会をするのか等、本日の交流会で詰めていきたいと思っています。

中嶋：モリ券は、「地域通貨」ではなく「商品券(期限半年)」の扱いにすると自由に出来ます。半年以上となると、色々制限がついて年間供給量合計が1,000万円以内であればよいようです。

児玉：たまたま見た機関紙に、「林地残材1トン6千円になって町内を循環(智頭町)」と記事が載っていました。記事の中にはっきりと「この仕組みの原型は高知県の土佐の森・救援隊が始めたものです。」と書かれています。竹田市は最終的に雇用創出を目的としていますが、整備しながら現実のものにしていきたいと思っています。また機会があればご教授ください。

16:30 終了